

地域おこし協力隊通信

第21回

リポーター…
小林正英 隊員



「ぶちろーど」で仕事をする小林隊員

皆さんこんにちは！
21回目の協力隊通信です。今回は、私が携わっている潮来市でのお試しテレワーク事業について、お話しします。

おそらく今までに、一回は「テレワーク」という単語を聞いたことがあると思います。簡単に説明しますと、会社以外のところで、会社にいるような仕事をする事。ここ最近のコロナウイルスの影響で、急速に世間に浸透している働き方です。そこで潮来市でもこの流れに乗って、2月19～21日の3日間と2月25～27日の3日間で、テレワークをお試しでやってみたい人を募集します。

今回のお試しテレワークのテーマは自由です。仕事をする時間や場所も自由で、もちろん余暇も自由なお試しテレワーク（ワーケーションに近いかもしれません）。テレワークを実施できる会社に勤めている人は、おそらく自由を愛する人だと考え、このテーマに設定しました。2泊

3日という短い期間ですが、自由に潮来のリアルな暮らしを体験していただきたいと思っています。

自由といっても、ある程度の枠は必要。そこで今回は磯山邸に宿泊してもらいます。拠点は磯山邸としますが、図書館やカフェなど様々な場所で仕事してもよし、少し足を延ばして、鹿嶋などへ行って遊ぶのもよし。とにかく自由に楽しんでいただきたいです。また潮来でのリアルな暮らしを知ってもらうため、潮来への移住者との交流会なども実施。潮来について多くのことを知ってもらえればと思っています。

1月14日現在、プログラムが完成し募集をかけるところです。たくさん応募があればと願っています。



「磯山邸」の縁側で仕事をする小林隊員



「陽だまり」で仕事をする小林隊員（笑顔）

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

水郷の魚たちーコクチバス

第60回

日本第2位の湖面積を誇る霞ヶ浦は、全国有数のワカサギやシラウオ、ゴロ（小型ハゼ類）、エビ類などの好漁場で、道の駅のお土産コーナーではこれらの煮干しや佃煮が人気です。霞ヶ浦に流入する河川には良好な自然環境が残されており、様々な絶滅危惧種の魚類も生息しています。一方で、これまでに霞ヶ浦には多くの外来魚が侵入してきました。ここ20年間だけでも、北アメリカ原産のチャネルキャットフィッシュ（アメリカナマス）の急増、中国原産のオオタナゴ、コウライギギ、ダントウボウの侵入と定着などが確認されています。そのような中で、最近、霞ヶ浦を含む県内水系での動向が特に注目されているのが、「コクチバス」です。

コクチバスは北アメリカ原産で、ブラックバスの仲間。口が小さく、体側に複数の暗色横帯が入ることで、近縁種のオオクチバス（口が大きく、体側には暗色縦帯）と区別できます。国内では1990年代以降に急速に分布を拡大しました。寒冷地の湖沼や流れの速い河川にも適応し、ワカサギやウグイなどの遊泳魚、小型ハゼ類などの底生魚、エビ類、昆虫類などを捕食します。本種は2005年に外来生物法に基づいて特定外来生物に指定され、飼育や運搬、保管、野外への放流が規制されているものの、未だに新たな水系への侵入・定着事例の確認が相次いでいます。

茨城県内でコクチバスが定着しているのは那珂川だけとされてきましたが、つい最近、県水産試験場内水面支場と私たちの研究室が、県北の久慈川と県央の涸沼川でそれぞれ繁殖し定着しているのを確認しました。さらに、昨年7月下旬には、霞ヶ浦の流入河川の桜川（つくば市北条）でも稚魚1個体を採集しました（同水系での確認は2例目）。これ以上の拡散を防ぐための対策を急ぐ必要があります。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション
木村 将士・渡邊 美如々・加納 光樹

コクチバスは北アメリカ原産で、ブラックバスの仲間。口が小さく、体側に複数の暗色横帯が入ることで、近縁種のオオクチバス（口が大きく、体側には暗色縦帯）と区別できます。国内では1990年代以降に急速に分布を拡大しました。寒冷地の湖沼や流れの速い河川にも適応し、ワカサギやウグイなどの遊泳魚、小型ハゼ類などの底生魚、エビ類、昆虫



霞ヶ浦の流入河川（桜川）で採集されたコクチバスの稚魚



涸沼川で採集されたコクチバスの未成魚